

目的: 前報にひきつづき、今回はナイロンおよび絹平織地における各種糊料の防染性の条件を知るための実験を行った。また糊料中からの染料の移行状態を知るための捺染実験または糊落し後の布地の剛軟度の変化についても測定をおこなった。

方法: 糊料の種類は前回同様のCMC, アルギン酸ソーダ, もち粉の他に各種ゴム類を使用した。これらの単独, 混合, 助剤添加などによる粘度, 曳糸性, 剛軟度などの物理化学的性能の測定をおこなった。測定方法は前回同様である。白色防染後の評価の方法も前回同様であり、鮮明さ, 尖鋭度, 流動性などから総合的に段階を定め行った。そして糊料条件との関連性をみた。また糊料中に染料を混合し型置捺染し、蒸熱, 糊落し後染料の布地への移行量を分光色彩計(東芝SC-1型)で測定した。この際の防染性も前回同様の評価方法でおこなった。また糊落し後の布地の剛軟度をクラーク式ソフトネステスターで測定した。

結果: ナイロン布地の防染糊はCMCにアルギン酸ソーダでもち粉の混合による結果がえられ、ゴム類はナフカクリスタルゴムの混合に良い結果がえられた。絹はいずれの糊料によってもナイロンより良い結果がえられた。しかし粘度その他の物理化学的性能との相関関係は明らかでなかった。捺染による染料の移行は染料濃度との関連は大であるが、糊料の種類などとの関連は今のところ明らかでなかった。糊落し後の剛軟度は、原布に比べ何れも硬化の傾向にあるが特にもち糊使用の場合はその傾向が大であった。